

京セラ株式会社 2020年3月期上期 決算説明会

(2019年11月1日実施)

代表取締役社長 谷本 秀夫 スピーチ

<1. (中表紙) 2020年3月期上期 決算概要>

<2. 2020年3月期上期 決算概要>

上期の売上高は、前年同期比ほぼ横ばいの7,991億円となりました。「コミュニケーション」の増収及び「産業・自動車用部品」で今期に実施したM&Aが寄与したものの、「電子デバイス」の減収を主因に部品事業の売上が減少しました。営業利益は223億円減少の603億円、税引前利益は205億円減少の852億円となりました。部品事業の減益を機器・システム事業の増益でカバーするには至りませんでした。税引前利益率は2桁を維持しました。

設備投資額はほぼ横ばいとなりましたが、減価償却費は、前期に引き続き投資を行っていることから、部品事業を中心に48億円の増加となりました。研究開発費についても、みなとみらいリサーチセンターの設立などに伴い、33億円の増加となりました。

平均為替レートは、対米ドルは前年同期に比べ1円円高の109円、対ユーロは9円円高の121円となり、売上高は約185億円、税引前利益は約65億円、押し下げられました。

<3. 2020年3月期上期 決算要約>

上期決算の要約としては大きく2点あります。

1点目は、左側に記載のマクロ経済の悪化による部品需要の減少です。「産業・自動車用部品」では、機械工具事業でのサザンカーソン社のM&Aにより増収となったものの、半導体製造装置用部品や車載用部品などの需要が大きく減少しました。また、「電子デバイス」においては、特にAVX Corporationが市場での在庫調整の影響を受けました。

2点目は、前期までの構造改革の効果が現れ、課題事業の採算が改善したことです。「半導体関連部品」は減収となったものの、有機材料事業の黒字化により増益とすることができました。また、「コミュニケーション」では、通信機器事業の改善により、前期第2四半期以降、5四半期連続で黒字を継続しています。「生活・環境」は、セグメントとしては赤字ですが、ソーラーエネルギー事業の採算改善は進んでおり、損失を縮小することができています。

<4. 2020年3月期上期 事業セグメント別売上高>

これらの結果、セグメント別の売上高は、「半導体関連部品」、「電子デバイス」が減収となり

ましたが、「産業・自動車用部品」及び「コミュニケーション」は増収となりました。

<5. 2020年3月期上期 事業セグメント別利益>

利益は、「コミュニケーション」の採算が大きく改善したものの、「産業・自動車用部品」及び「電子デバイス」が減益となりました。次に、各セグメントの状況をご説明します。

<6. 2020年3月期上期 セグメント別業績推(1)>

上段の「産業・自動車用部品」は、機械工具事業でのM&Aにより増収となりました。買収したサザンカーソン社の売上規模は年間で600億円程度ですが、この上期には4ヵ月分が寄与しています。一方、利益は減少しました。半導体製造装置用ファインセラミック部品や自動車関連部品などの売上減に加え、中・長期的な増産対応に向けた設備投資や、M&Aに伴う償却費の増加等が要因です。

次に下段の「半導体関連部品」です。セラミックパッケージ事業において光通信用パッケージの需要回復が見られたものの、中国景気減速等の影響から水晶・SAWデバイス用の需要が減少し、セグメント全体で減収となりました。一方、利益については、有機材料事業が前期に実施した構造改革の効果により黒字化したことから、減収ながらも増益となりました。

<7. 2020年3月期上期 セグメント別業績推移(2)>

上段の「電子デバイス」は、AVX Corporationにおいて市場での在庫調整の継続や米中貿易摩擦による世界経済の減速の影響を受け、需要が減少したことを主因に減収減益となりました。

下段の「コミュニケーション」は、国内市場向け携帯端末の販売増を主因に増収となりました。増収に加え原価低減の効果もあり、利益も大幅に増加しました。

<8. 2020年3月期上期 セグメント別業績推移(3)>

上段の「ドキュメントソリューション」は、前期に実施したM&Aの貢献はあったものの、売上の約9割が海外向けであることから、円高の影響を大きく受け、売上は横ばい、利益は減少しました。減益となったものの、生産工程の自動化等による生産性向上への取り組みや原価低減により、2桁の利益率を維持しました。

下段の「生活・環境」では、医療機器事業が前期に実施したM&Aの貢献もあり増収となりました。蓄電池等の研究開発費用の増加を主因に事業損失となったものの、ソーラーエネルギー事業は、前期までに実施した構造改革の効果に加え、継続して原価低減を進めていることから採算が改善しており、セグメント全体の損失縮小につながっています。

以上が上期実績の説明です。次に、今期業績予想についてご説明します。

<9. (中表紙) 2020年3月期 業績予想>

<10. 2020年3月期 業績予想>

通期業績予想については、全体では4月公表予想から修正はありませんが、セグメント別には上期実績と下期見通しを踏まえ修正しました。

<11. 2020年3月期 事業セグメント別売上高予想>

セグメント別の売上高予想です。「産業・自動車用部品」、「コミュニケーション」、「生活・環境」を上方修正し、「半導体関連部品」、「電子デバイス」、「ドキュメントソリューション」を下方修正しました。

<12. 2020年3月期 事業セグメント別利益予想>

利益は、「産業・自動車用部品」、「電子デバイス」を下方修正しましたが、「コミュニケーション」を上方修正しました。なお、「本社部門損益等」も修正しています。

<13. 事業セグメント別業績予想の主な修正要因 -前回予想比->

事業セグメント別の予想の主な修正要因をご説明します。

「産業・自動車用部品」については、機械工具事業、ファインセラミック部品事業でのM&Aが寄与するため、売上高を上方修正しています。一方、利益は下方修正しました。相対的に収益性の高い既存事業の売上が中国景気減速等の影響を受け、期初の想定に比べ低い水準で推移していることが要因です。

「電子デバイス」は、AVX Corporationにおいて在庫調整が想定以上に長引いており、売上、利益ともに下方修正しました。

「コミュニケーション」は、上期実績及び下期見通しを踏まえ、上方修正しています。

部品事業で大きく下方修正となりましたが、引き続き受注獲得の機会をとらえるとともに、原価低減に努め、通期業績予想の達成を図ります。業績予想については以上です。

<14. 中・長期の事業拡大に向けた取り組み>

中・長期の事業拡大に向けた取り組みをご説明します。1点目が5G関連事業、2点目が環境・エネルギー事業です。

<15. 5G関連事業>

5G関連は、来期以降に本格的な需要を予想していますが、すでにインフラ向け部品においては、一部需要の立ち上がりが見られます。

スライド左側の当社の MLCC 事業は、小型・高容量品に注力しており、これまではスマートフォンが受注のメインドライバーでしたが、今期より新たに 5G 基地局向けの引き合いも強くなってきました。基地局向けの売上高構成比は前期に比べ、今期は大きく増加する見通しです。

また、光通信用セラミックパッケージについては、過去 1 年ほどは調整局面にありましたが、今期に入り、幹線系の需要が堅調に推移しています。

これらの既存製品に加え、5G 基地局用セラミックフィルターの事業拡大を進めます。スライド右側にありますとおり、本年 12 月には「京セラ宇部 RF テック株式会社」を設立し、宇部興産株式会社のフィルターの設計技術と、当社の誘電体セラミックスの製造力を合わせ量産化すると共に、グローバルな販売網を通じて拡販を図ります。

<16. 環境・エネルギー事業の拡大 (1) >

環境・エネルギー事業の拡大についてご説明します。

再生可能エネルギーの自家消費時代の到来に向けて、当社では「モノ売り」から「サービスの提供」へと事業転換を図ってまいります。

本年 10 月より、個人ユーザー及び電力サービス事業者向けに、それぞれ初期投資負担を低減する新しいビジネスモデルを構築し、サービスの提供を開始しました。

当社の高い信用力を活かし、長期にわたるサービスを提供することで再生可能エネルギーの導入を促進し、低炭素社会の実現に貢献してまいります。

<17. 環境・エネルギー事業の拡大 (2) >

また、戸建や集合住宅、それぞれの自家消費需要をサポートする新製品も開発しました。

左側の新型蓄電池、エネレッツァは、電極を粘土状にすることで、既存の電解液を使用する製品に比べ、長寿命かつ高い安全性、さらに低コスト化を実現しました。来年 1 月から販売をスタートし、量産は来年秋頃を予定しています。

右側の世界最小サイズを実現した SOFC 型燃料電池、エネファームミニは、設置自由度を大きく向上させた製品です。奥行き 50cm のわずかなスペースで設置が可能となることから、これまでは設置が難しかった集合住宅等の需要喚起も出来るものと考えています。

京セラの強みである太陽電池に加え、新たに蓄電池、燃料電池の新製品ラインアップの拡充を図り、売上拡大につなげてまいります。

これからの環境・エネルギー市場では、当社のリソースを大いに活かすことができます。外

部協業も積極的に活用し、事業の柱の一つとして育てていきたいと考えています。

<18. 1株当たり配当金の推移：4期連続の増配>

最後に、配当金についてご説明します。

中間配当金については、前中間期に比べ20円増配の80円とさせて頂きました。年間配当予想は期初予想から変更なく、記念配当を除くベースで前期比40円増配の160円を予想しています。

年間配当金は、今期予想まで含めると4期連続の増配となります。引き続き業績拡大に努め、株主還元の向上を図ってまいります。

以上

将来事象に関する注意事項

当資料には、将来の事象についての2020年3月期上期決算説明会開催日（2019年11月1日開催）時点における当社グループの期待、見積り及び予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象についての記述には、既知及び未知のリスク、不確実な要因並びにその他の要因が内包されており、当社グループの将来における実際の財政状態及び活動状況が、当該将来の事象についての記述によって明示または黙示されているところと大きく異なる場合があります。